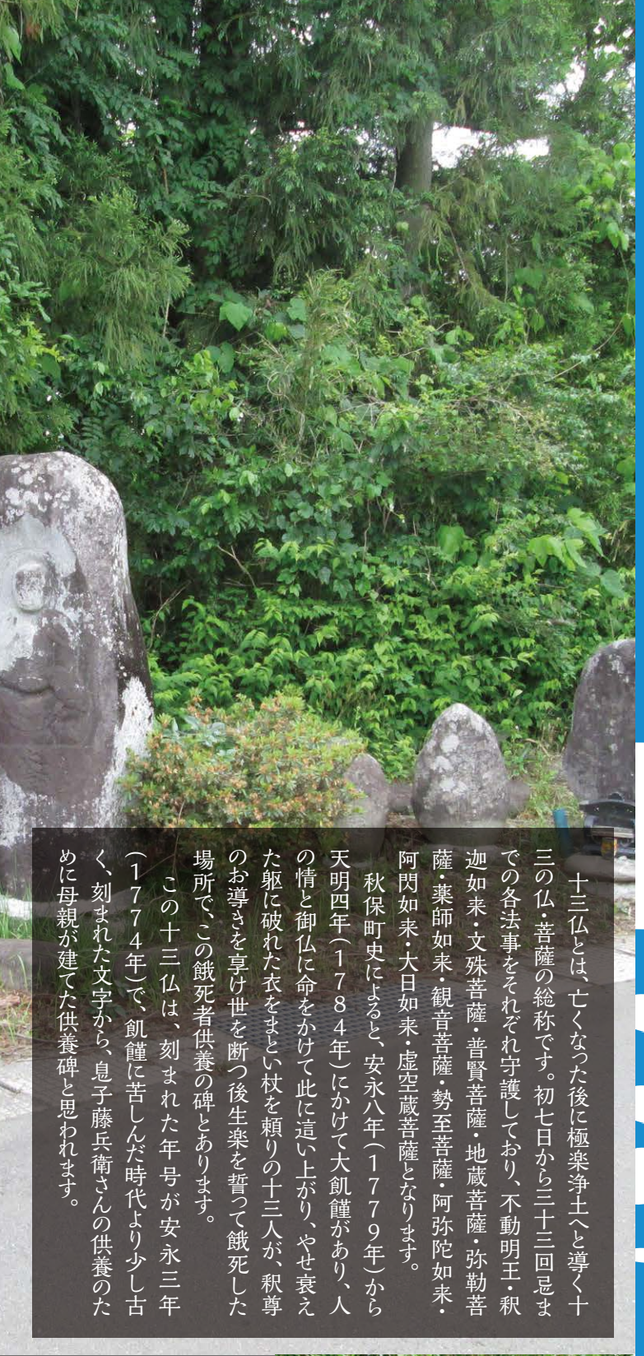
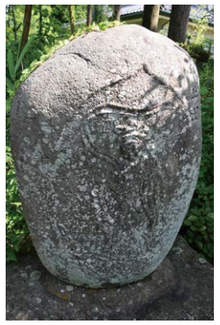


いってみっぺ秋保！

道ばたの神々Ⅲ
町～野中～加沢編

二口越え最上街道の宿場であった長袋村の町（境野村から獺澤を渡り登った所から神明神社までが町場である。）から、向泉寺門前、秋保神社（諏訪神社）、清水窪、加沢大雲寺門前を経て、関山街道への古道である大雲寺道の入口に至る道ばたの石塔を訪ねてみました。

かつての街道筋であることから、多種多様な道ばたの神々に出会えます。なにげない道ばたにちょっと目を向けてみませんか。



十三仏とは、亡くなった後に極楽浄土へと導く十三の仏・菩薩の総称です。初七日から三十三回忌までの各法事をそれぞれ守護しており、不動明王・釈迦如来・文殊菩薩・普賢菩薩・地蔵菩薩・弥勒菩薩・薬師如来・観音菩薩・勢至菩薩・阿弥陀如来・阿閦如来・大日如来・虚空蔵菩薩となります。

秋保町史によると、安永八年（1779年）から天明四年（1784年）にかけて大飢饉があり、人の情と御仏に命をかけて此に這い上がり、やせ衰えた躯に破れた衣をまとい杖を頼りの十三人が、釈尊のお導きを享け世を断つ後生楽を誓って餓死した場所で、この餓死者供養の碑とあります。

この十三仏は、刻まれた年号が安永三年（1774年）で、飢饉に苦しんだ時代より少し古く、刻まれた文字から、息子藤兵衛さんの供養のために母親が建てた供養碑と思われます。

十三仏

十三体の仏像と「干時　安永三年（1774年）十一月吉日」「廻国供養　藤兵衛母」と刻まれている。

いってみっぺ秋保！
道ばたの神々Ⅲ
町～野中～加沢編

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連　絡　先：秋保総合支所総務課（022-399-2111）
秋保市民センター（022-399-2316）

人々が素朴な信仰心を背景に、
その願いを込めて建てた石塔や祠など、
道ばたにある神々を巡り、
これを建てた昔の人々の心に触れてみませんか。

掲載されている情報は、令和3年3月現在のものです。

訪れてみたい秋保
二口街道ツアー 62

No.33

阿弥陀如来坐像

延享二年（1745年）十一月建立、浮彫の阿弥陀如来坐像「大念佛供養塔　當町一宇」高さ約2mの石塔で、長袋の町場（長袋宿）の人々が建てた供養塔です。延享二年十一月は9代将軍徳川家重が征夷大将軍になった月です。

道ばたの神々Ⅲ（長袋編）

自転車での周遊がおすすめ！

❶ 神明神社前の石塔

獺沢川を渡り登った所から神明神社までが二口街道の宿場集落長袋町であり、安永九年（1780年）の山神から大正十三年建立の成田山碑まで、それぞれの祈りを込め町集落中建立の石塔が十三基あります。

文化元年建立の金毘羅大権現には「左ハいさご 川さ紀道」と刻まれているので、この碑は、他からここに移されたものと思われます。また、文化七年（1810年）の子安観音像（浮彫）は大きさもあり存在感があります。

❷ 十三仏（じゅうさんぶつ）

延享二年（1745年）に長袋町の人々が念仏供養で建立した高さ約2mの阿弥陀如来坐像（浮彫）と、安永三年（1774年）の十三の菩薩像を線彫した十三仏、南無阿弥陀仏と彫った六字名号碑、慶應二年建立の馬頭観世音があります。

十三仏塔の拓影

❸ 向泉寺門前の馬頭観世音

街道から向泉寺への分かれにひっそりと立つ馬頭観世音。飼馬の供養と道しるべを兼ねて建てられたものと考えられます。

❹ 原（はら）の足尾山碑

街道傍に大切に祀られ御札が立てられています。嘉永四年（1851年）建立の足尾山、他に松尾山観世音と文字が読めない小さな石塔があります。

足尾山は筑波連山の一つで、かつては修験の山だったそうです。字の示すとおり足の病にご利益があるとされていたようで、碑には施主富町養吉と願主の名前が刻まれています。

❺ 並木の石塔群

並木集会所前に立つ六字名号碑、馬頭観世音、湯殿山、古峯神社、小牛田山神、先祖供養碑等、享保から明治までの7基の石塔があります。

享保三年（1718年）の六字名号碑（南無阿弥陀仏）は、長袋山根組の建立で、（同年同種の石塔が菅刈・竹の内・滝原にあります。）その他は並木組の人々の建立です。

❻ 首切地蔵

秋保中学校前の国道457号丁字路付近にある首のない地蔵（左）。右は新しく建立された交通安全地蔵。この付近はかつて処刑場だったと伝えられています。

首のない地蔵のいわれは諸説ありますが、処刑された罪人の供養のために建てられたものであるため、何も刻まれていないのではないかと思われます。

❼ 諏訪北の馬頭観音

秋保神社の東の県道沿いに半分埋もれていますが、文化年間から明治時代に建てられた馬頭観世音が三基と先祖供養の石塔です。忘れ去られようとしている道ばたの供養碑ですが、庶民の暮らしが伺えます。

❽ 諏訪前の木花開耶姫（このはなさくやひめ）

秋保神社前に天明二年（1782年）の170㎝程の山神・年代不明の六道能化地蔵、文化八年（1811年）の湯殿山と馬頭観世音、天保十二年（1841年）の蔵王大権現と小牛田山神、そして文政五年（1822年）建立の木花開耶姫の浮彫の石塔があり、何れも野中組中の建立です。木花開耶姫像の下部には建立者の名前が多数ひらがなで刻まれています。

❾ 諏訪北の不動尊

文政年間建立の不動尊と左右にそれぞれ1基の石塔があります。ここの屋敷の東側はかつて定期バスも走る丁字路交差点（辻）であったので、元々この辺りに建っていたものが何らかの事情により現在地に移されたものと思われます。

不動尊は不動明王の尊称で大日如来の化身ともいわれ、日本仏教の諸派及び修験道で幅広く信仰されているものです。

❿ 清水窪（しみずくぼ）の石塔

静御前の伝説がある清水窪。2mを超える石塔は清水久保板碑で一部剥落し年代などは不明。宝永七年（1710年）の南無阿弥陀仏には名取郡北方秋保長袋村野中組男女一宇建立石塔供養也と刻まれています。

他に大乗妙典供養碑・三界萬供養碑と馬頭観音が並んでいます。大乗妙典供養碑は元文五年（1740年）新川村の十助さんが仏教教典である「大乗妙典」を奉読した記念に建てたものです。

⓫ 向宿大雲寺（むかいしゅくだいうんじ）入口の石塔

加沢組中建立の文政三年（1820年）の二十六夜塔と馬頭観世音、文政六年の小牛田木花開耶姫浮彫、天保三年（1832年）の蔵王大権現、弘化二年（1845年）の小牛田山神と明治四年（1871年）の馬頭観世音の六基の供養碑があります。

二十六夜塔は月の出を待って拝む催事の祈念塔です。

⓬ 大雲寺門前の石塔群

加沢組中で建立された供養塔が様々な理由でここに集められたものと思われます。元禄十二年（1699年）の南無阿弥陀仏から安政四年（1857年）の湯殿山五十度供養碑まで十二基あります。

⓭ 加沢ため池（大雲寺道）の山神

加沢ため池の縁で二口街道と関山街道を繋ぐ大雲寺道傍の安永十年（1781年）加沢組中建立の山神、文久三年（1863年）幕末に加沢のおそのさんが建てた十八夜供養碑、慶応三年（1867年）に喜左衛門さんが建てた馬頭観世音があります。

春は田の神となり秋には山神となる山神碑はまさに山と里の界に立っています。十八夜塔は月待塔で、月の出を待って供え物をして拝む祭事の祈念塔です。十八夜は子安観音と称された如意輪観音が主尊です。

周遊約7.0km
徒　歩 ☞ 周遊約1時間30分
自転車 ☞ 周遊約50分